令和8年 前期学校評価アンケート 考察

▼ 目的

- 目的：地域に開かれた学校づくりと、地域・企業等との協働による教育活動を検証し、教育活動及び学校運営の改善に活かすこと

▼アンケート実施概要

- 対象者：生徒・保護者・教職員
- 実施期間：令和8年度前期（7月1日～7月15日）
- 回答方法：Microsoft Forms による回答（保護者は紙面回答も可）
- 回答数・回答率
  - 教職員：46 名／ 47名（97.9%）
  - 保護者：86 名／106 名（81.1%）
  - 生　徒：91 名／106 名（85.8%）　1年生33名 2年生30　3年生28名

▼学校評価アンケートの評価項目について

本校では、地域協働を教育課程の中心に据え、地域社会や企業、大学等との協働を通して、生徒一人一人の主体性や社会性、自立に向けた力の育成を目指しています。そのため、学習・進路、人間関係、生活習慣、地域協働、学校運営の5つの観点から学校評価を実施しました。

▼評価項目の構成と分類ごとの肯定的平均回答率（肯定的回答基準：80%以上）

カテゴリ・分類	主な内容	教職員	保護者	生徒	評価
1 学習・進路	目標設定、学習への取組、達成感、実習、働く力の育成	約 90%	約 89%	約 85%	◎
2 人間関係 自己理解	自己肯定感、協力、感謝、他者理解、相談体制	約 89%	約 91%	約 88%	◎
3 生活習慣 自立	あいさつ、健康管理、衛生、時間や約束、家庭での役割	約 82%	約 87%	約 82%	○
4 地域・企業との協働	地域コミュニケーション学習、地域活動、職場実習、社会参加	約 95%	約 90%	約 90%	◎
5 学校運営 支援体制	個別相談、情報発信、教育方針、いじめ防止、組織的支援	約 93%	約 89%	約 88%	◎

R8 前期学校評価アンケート質問内容 及び 肯定的な回答結果

数値は「できている」「だいたいできている」の肯定的な回答率を示しています。80%を基準とし，下回っているものには赤色をつけています。

		教職員	前期	後期	生徒	前期	後期	保護者	前期	後期
1	目標の明確化	生徒や保護者に短期目標や評価について、伝えている	91%		今、現在の自分の目標がわかっている	93%		短期目標や評価について、学校や保護者に伝えている	95%	
2	目標に向かう取組	生徒が自己目標に向かって学習に取り組めるよう指導している	96%		目標にむかって学習に取り組んでいる	90%		子どもは目標に向かって学習に取り組んでいる	93%	
3	地域コミュニケーションの授業の満足感や達成感	生徒が満足感や達成感を持ち、地域コミュニケーションの学習に取り組めるよう指導している	91%		地域コミュニケーションの授業で「できた」「うれしかった」ことがある	91%		子どもは地域コミュニケーションの授業に満足感や達成感を感じている	91%	
4	共通教科の授業の満足感や達成感	生徒が満足感や達成感を持ち、共通教科の学習に取り組めるよう指導している	91%		共通教科の授業で「できた」「うれしかった」ことがある	87%		子どもは共通教科の授業に満足感や達成感を感じている	92%	
5	実習の満足感達成感	生徒が満足感や達成感を持ち、職場等実習に取り組めるよう指導している	91%		職場での実習で「できた」「うれしかった」ことがある	86%		子どもは職場等の実習に満足感や達成感を感じている	93%	
6	一生懸命取り組む	生徒が一生懸命に取り組める活動を用意している	96%		一生懸命に学習に取り組んでいる	96%		子どもが一生懸命に学習に取り組むような励ましをしている	94%	
7	生徒の良さの理解	生徒のよさを積極的に見つけ、認め、伝えている	100%		自分のいいところがよくわかっている	78%		子ども本人に自身のよさを伝えている	90%	
8	働く意欲	働く意欲や働くために必要な姿勢・態度を育てている	98%		働くことに必要な意欲・姿勢・態度が身についてきた	87%		子どもに働く意欲や働くために必要な姿勢や態度につい話すよう心がけている	92%	
9	計画的な指導や支援の伝達	教員は個別の包括支援プランに基づいて計画的な指導や支援を行っている	91%		先生は何のために勉強をするのかをわかりやすく教えてくれる	95%		子どもの目標や学習計画に基づく計画的な指導や支援を把握している	88%	
10	生徒の学習成果の伝達	生徒の努力や達成度について評価し、個別の包括支援プランの作成や指導法の改良に活かしている	89%		先生は学習の成果について伝えてくれる	99%		子どもが頑張っている姿をほめている	94%	
11	友達仲間、協力	生徒が友だちや仲間を大切にし、互いに協力しようとする態度が養えている	98%		友だちや仲間を大切にし、互いに協力している	91%		子どもには友だち仲間を大切にし、互いに協力するよう話している	97%	
12	誰かの役にたっている	生徒が誰かの役に立ちたいという思いを促す学習を用意している	93%		自分は誰かの役に立っていると思う（ありがとうと言われた・手伝って感謝されたなど）	80%		家での役割に対して、子どもにありがとうと伝えている	94%	
13	生徒への理解	生徒のことを理解できている	93%		自分のことを理解してくれる人がいる	82%		子どものことを理解できている	88%	
14	挨拶	生徒が自分から積極的に挨拶しようとする態度が養えている	83%		自分からすすんで挨拶をしている	90%		家庭・施設では自分から進んで挨拶するように伝えている	92%	
15	規則正しい生活	生徒には規則正しい生活を送るよう指導している	89%		規則正しい生活を送るよう心がけている	80%		子どもには規則正しい生活を送るように話している	93%	
16	食生活（朝食）	生徒が好ましい食生活を送れるよう指導している	76%		朝ごはんをきちんと食べている	78%		子どもに朝ごはんをきちんと食べるように促している	92%	
17	衛生面	生徒に衛生に関する指導や支援を行っている	87%		清潔にしている（例.入浴・着替え・歯磨きなど）	99%		子どもには日常的に清潔にするように促している	94%	
18	決まり約束を守る大切さ	生徒に学校のきまりや約束を守る大切さについて指導している	98%		（学校や家庭、社会での）きまりや約束を守ることは大切である	98%		子どもは学校や家庭、社会での決まりや約束を守ることは大切なことと思っている	94%	
19	決まり約束を守る	生徒は学校のきまりや約束を守って学校生活を送っている	87%		（学校や家庭、社会での）きまりや約束を守っている	98%		子どもに学校や家庭、社会のきまりや約束を守るように働きかけている	98%	
20	時間を守る	生徒には時間を守る大切さを指導している	98%		時間を守ることを意識して行動している	89%		子どもには時間を守る大切さを伝えている	100%	
21	家庭内での役割	生徒に家庭内で決まった役割を担うよう促している	87%		家庭で決まった役割（例.お手伝い）があり、実行している	82%		家庭での役割を決め、子どもが責任を持って果たせるようにしている	81%	
22	企業との連携・協働	企業との連携・協働による学習環境が設定できている（職場実習など	93%		企業の協力や理解があり、職場実習などができていることに感謝している	95%		企業との連携・協働による職場実習等で最後まで取り組めるように励ましている	98%	
23	地域との連携・協働	地域との連携・協働による学習環境が設定できている	93%		地域の協力や理解があり、地域との活動ができていることに感謝している	95%		地域との連携・協働による地域コミュニケーションや地域行事などで最後まで取り組めるように励ましている	92%	
24	個別の相談	生徒や保護者からの個別相談に対応している	98%		困ったときに家庭や学校において相談ができる人がいる	87%		個別相談など学校に気軽に相談できる	86%	
25	学校の教育の趣旨	生徒、保護者、地域、企業等に本校の教育の趣旨や目的を理解できるように伝えている	91%					保護者として学校の教育の趣旨や目的を理解している	94%	
26	いじめ防止	全教職員が学校いじめの防止等基本方針の内容を理解し、組織的対応に努めている	93%							
27	生徒の訴えの共有	生徒・保護者の訴え（アンケート結果含む）や相談内容を共有している	93%							

2. 教職員アンケート結果について

教職員の肯定的回答率は全体的に高く、多くの項目で 90%を超えている。特に「生徒のよさを積極的に見つけ、認め、伝えている」は 100%、「働く意欲や態度の育成」「友達や仲間との協力」「個別相談への対応」「時間を守る指導」では 97%以上となっており、生徒理解や進路・生活指導への自信と実践がうかがえる。

一方で、「生徒が好ましい食生活を送れるよう指導している」は 76.1%と唯一 80%を下回った。

【教職員の課題分析】

「食生活（朝食）（76.1%）」

食生活の指導は他の生活指導項目と比較して低い評価となった。規則正しい生活指導は 89.1%である一方、食生活指導は 76.1%に留まっており、教員にとって家庭の生活習慣に直接関わる部分は指導の成果や実践状況を把握しにくいことが要因と考えられる。

また、生徒側の朝食摂取率も 78.0%と低く、教職員の課題意識が生徒の実態を反映した結果とも考えられる。

3. 生徒アンケート結果について

生徒の評価は全体として良好である。特に「先生は学習成果について伝えてくれる」が 98.9%、「きまりや約束を守ることは大切」が 97.8%、「企業や地域への感謝」が 94.5%と高く、学校での学習や進路学習の意義を十分に理解している。

また、「目標が分かっている」93.4%、「目標に向かって学習している」90.1%、「一生懸命取り組んでいる」95.6%となり、主体的な学習姿勢も定着している。

【生徒の課題分析】

「自分の良さが分かっている（78.0%）」

アンケート全体で最も低い項目である。教職員は 100%が「生徒のよさを認めて伝えている」と回答しているが、生徒自身の自己肯定感には十分結び付いていない結果となった。

教員からの評価や励ましは行われているものの、生徒自身がそれを自己理解として受け止めたり、自信として定着させたりするには継続的な支援が必要である。特に思春期・青年期にある高等部生徒は他者との比較により自己評価が低くなりやすく、成功体験の積み重ねや振り返り活動の充実が求められる。本校が取り組む地域協働の取組みを活かし、自分で考え、チャレンジした結果として「できた」という実感が自己肯定感に結び付き、自信をもって社会へ出ていけるように、今後も個に応じた学習活動の工夫が必要である。

「朝食を毎日食べている（78.0%）」

生活習慣の課題が明確に表れている。保護者は 91.9%が朝食摂取を促していると回答しているが、生徒の実際の行動には結びついていない。

家庭での声掛けは行われていても、起床時間や食欲、生活リズムなど複数の要因が影響していると考えられる。生活リズムの安定は、卒業後の就労生活を支える最も大切な部分だと考える。今後も健康教育や家庭との連携をさらに進める必要がある。

4. 保護者アンケート結果について

保護者の評価は全体的に高く、特に「時間を守る大切さを伝えている」100%、「企業との連携」97.7%、「友達や仲間を大切にするよう話している」96.5%など、学校と連携した子育てが行われていることが分かる。また、「学校の教育の趣旨や目的の理解」94.2%となっており、学校教育への理解や信頼をいただけていることが分かった。

肯定的回答が 80%未満の項目は存在しなかった。

5. 三者間で差が大きい項目の分析

三者それぞれの回答結果を見ると、多くの項目で 80%を超える高い評価となっており、大きな課題は見られない。しかし、教職員・生徒・保護者の評価を比較すると、項目によっては回答結果に大きな開きが見られる。これは、同じ教育活動や生徒の様子についても、立場によって捉え方や感じ方が異なっていることを示している。特に、生徒自身の実感と教職員・保護者の認識との間に差が見られる項目については、数値だけでは見えにくい新たな課題が浮かび上がっていると考えられる。そこで次に、三者間の評価の開きが大きかった5つ項目について分析する。

項目7「生徒の良さの理解」

- 教職員 100.0%
- 生徒 78.0%
- 保護者 89.5%

三者間で最も大きな開きが見られた項目である。教職員は全員が生徒のよさを認め、伝えていると回答している一方で、生徒自身が自分のよさを理解している割合は 78.0%にとどまった。保護者も89.5%と高い評価を示していることから、周囲は生徒のよさを認めているものの、生徒本人の自己肯定感や自己理解に十分結び付いていない実態がうかがえる。生徒一人一人が自身の成長や強みを実感できるよう、振り返り活動や成功体験の積み重ねを充実させ、自己肯定感の向上を目指す必要がある。

項目12「誰かの役に立っている」

- 教職員 93.5%
- 生徒 80.2%
- 保護者 94.2%

教職員と保護者は高く評価している一方で、生徒の実感は約 14 ポイント低い結果となった。学校や家庭では、生徒が周囲の役に立っていると捉えられているが、生徒自身はその価値や成果を十分に実感できていないと考えられる。日常生活や実習、地域協働活動の中で自己有用感を感じられるように、事前学習、事後学習の充実を図る必要がある。

項目13「生徒への理解」

- 教職員 93.5%
- 生徒 82.4%
- 保護者 88.4%

教職員と生徒の間に約 11 ポイントの差が見られた。教職員は生徒理解に努めていると認識しているが、生徒が「理解されている」と実感する割合はそれを下回った。結果を真摯に受け止め、日常的な対話や相談の機会をさらに充実させることで、生徒が安心感や信頼感を持てる関係づくりを進める必要がある。

項目16「食生活（朝食）」

- 教職員 76.1%
- 生徒 78.0%
- 保護者 91.9%

三者間で約 14 ポイント以上の差が見られた項目である。保護者は朝食を食べるよう積極的に働き掛けていると認識している一方、生徒の実態や教職員の評価は低い結果となった。家庭での声掛けは行われているものの、生活リズムの乱れや食欲などの要因から、実際の行動につながっていないことが考えられる。朝食を摂る・摂らないというだけではなく、朝食が取れるように前日に準備を整えておくことや、起床時間など生活習慣が影響していることも考えられる。この項目は家庭でのことなので、教員は把握しにくい部分ではあるが、安定した就労生活を目指す上で、重要性をしっかり伝え、家庭と学校が連携し、生活習慣の改善に向けた継続的な取組を工夫し進める必要がある。

項目19「決まり・約束を守る」

- 教職員 86.9%
- 生徒 97.8%
- 保護者 97.7%

生徒・保護者と教職員との間に約 11 ポイントの差が見られた。生徒や保護者は決まりや約束を守れていると認識している一方で、教職員は日常の指導場面から改善の余地があると捉えていることが分かる。教職員は細かな生活面の課題やルール違反を把握しているため、就労生活をイメージする中で「働く上では許されるものではない」という思いから、評価が厳しくなったものと考えられる。学校と家庭で、生徒の実態や課題について認識を共有することが重要である。

総括

前期学校評価アンケートでは、三者ともに多くの項目で 90%前後の高い評価を示しており、学校の教育活動に対する信頼と満足度の高さが確認できた。特に目標に向かう学習、地域・企業との連携、進路指導、人間関係づくりに関する項目では高い評価が得られている。

一方で、自己肯定感に関わる「⑦ 生徒の良さの理解」、健康的な生活習慣に関わる「⑯ 食生活（朝食）」は引き続き重点課題である。また、「⑫ 誰かの役に立っている」「⑬ 生徒への理解」では、教職員や保護者が感じている評価と生徒自身の実感との間に差が見られた。東山総合支援学校の掲げる学校教育目標、及び、めざす生徒像を考えると最も大きな課題が明確になったといえる。